

\*\*\*\*\* 2006.3.29 発行 \*\*\*\*\*

Kwacha (クワチャ) はチェワ語で「夜明け」を意味します。

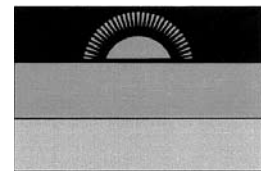
編集・発行：日本マラウイ協会  
 〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-2-24 青年海外協力協会気付  
 Tel. 03-3447-2921 Fax 03-5798-4269  
 Home Page <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm>  
 E-mail [japan-malawi@mc.newweb.ne.jp](mailto:japan-malawi@mc.newweb.ne.jp)

### 【マラウイ共和国】

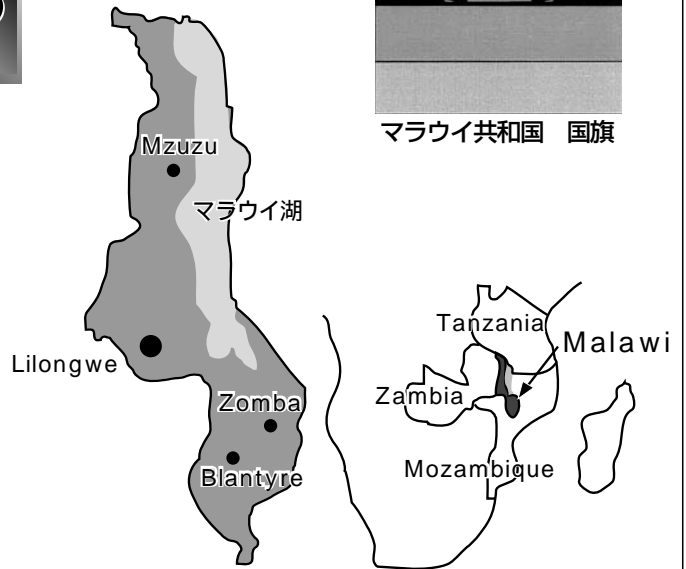
面積：118,484 平方 km (日本の約 1/3)  
 人口：1120 万人 (2004 年世界銀行)、首都：リロングウェ  
 独立：1964 年 7 月 6 日、公用語：英語、チェワ語  
 政体：共和制、大統領：ビング・ワ・ムタリカ  
 為替レート：US\$1 = MK 133.88 (3 月 1 日現在)  
 MK 1 = 0.87791 円 (3 月 1 日現在)

### 【日本マラウイ協会 (Malawi Society of Japan)】

日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体です。趣旨をご理解の上、広く各位の入会を希望します。会員数：265 人 (3 月 1 日現在)



マラウイ共和国 国旗



## レポート マラウイ食糧支援募金 2005 のご報告

当会は、昨年 9 月 21 日の理事会での決定を受けて、マラウイの食糧不足の克服をすこしでも支援するため本年 1 月末まで募金活動を展開してきました (右、依頼文を参照)。

皆様から当会へのお振込みによる募金をはじめ、昨年 10 月 1 日、2 日のグローバルフェスタ 2005、10 月 29 日、30 日の青年海外協力隊発足 40 周年記念 JICA ボランティアフェスタ、12 月 14 日のチカゴ駐日マラウイ大使送別会のご参加の方々からの募金により、2 月 9 日には募金総額

108 万円を国連 WFP 協会に寄付することができました。国連 WFP 協会は国際連合世界食糧計画 (WFP) の日本における民間協力の窓口で、私たちの募金は WFP のマラウイでの食糧援助活動に貢献することになります。

皆様のご厚意にお礼申し上げるとともに、すべてのマラウイ人が困難を乗り越えて笑顔を取り戻すことを願っています。ありがとうございます。ありがとうございました。



▲国連 WFP 協会からの感謝状と領収書

### マラウイ食糧支援のお願い

日本マラウイ協会の皆様へ

先般の報道によりますと、マラウイの 2005 年 3 月～4 月期のとうもろこしの収穫は、2002 年～2003 年の食糧不足時を下回り 1992 年以來最悪となりました。これは直接的には洪水や干ばつなどの不順な天候さらには農業投入物の不足などによるものです。またエイズによる生産活動の低下も指摘されています。マラウイの 1,200 万人～1,300 万人の人口は主食として少なくとも 200 万トンのとうもろこしを必要としています。今期の収穫は 120 万～130 万トンで必要量を大幅に下回っています。マラウイ政府は 30 万トンを南アフリカから輸入すると表明していますが、公式・非公式の輸入を考慮しても、食糧不足が深刻化する見通しです。マラウイ脆弱性評価委員会によると、今後とうもろこしの価格が高騰しないとしても、全人口の約 34% にあたる約 420 万人が 2006 年の 3 月～4 月の収穫期までに約 27 万トンのとうもろこしに相当する食糧援助を必要としています。

こうした厳しい状況に直面し、チカゴ駐日マラウイ大使は日本マラウイ協会 (日マ協会) にマラウイ国民への支援を訴える書簡を送付しました。

すでに日マ協会のウェブサイトなどを通じて公開しておりますように、2002 年には、日マ協会はみなさまの募金総額 142 万円 (食糧約 20 トン相当) をマラウイへの食糧援助に貢献することができました。私たちはこのことを誇りに思うとともに、募金していただいた方々にあらためてお礼申し上げたいと思います。前回の募金から 3 年後に同様な募金のアピールをせざるを得ないことは残念ですが、困難な時に自助精神を高めつつ食糧生産の不調と人々の困窮を克服することは、今マラウイの政府と国民にとっての切実な願いです。

こうした動向を受けとめ、日マ協会は 9 月 21 日の理事会において議論し再び食糧支援募金を展開することにいたしました。私たちのマンパワーや募金の力は限られたものですがマラウイの友人たちの苦境をすこしでもやわらげられればと思います。

前回と同様、募金は国際連合世界食糧計画 (WFP) のマラウイでの食糧支援活動に送ることとしています。募金される方は、日マ協会に郵便振り込みをされるようお願い申し上げます。一般の振り込み用紙を使ってください。口座番号は「00190-7-13125」で、加入者は「日本マラウイ協会」です。通信欄に「マラウイ食糧支援」と書いてください。振り込み手数料が必要となります。日マ協会の活動については、インターネット、機関紙などで報告いたしますので、情報を希望される方は、日マ協会への募金の際に、電子メールアドレスの記入もお願いいたします。

どうかご協力くださいますようお願い申し上げます。

2005 年 10 月 1 日  
 日本マラウイ協会  
 会長 教原孝憲

## レポート 第 4 回マラウイ ウォームハート プロジェクト完了報告

前号でレポートした第 4 回マラウイ ウォームハート プロジェクト (子供たちに水を～手押しポンプ型井戸建設プロジェクト) の実施者である青年海外協力隊 (JOCV) 平成 15 年度 2 次隊 山田耕平隊員 (村落開発普及員) と平成 15 年度 3 次隊 治久丸 愛隊員 (看護師) から完了報告が提出されました。その要約を掲載します。詳細は当会ホームページをご覧ください。

### ■プロジェクト名

子供たちに水を～手押しポンプ型井戸建設プロジェクト

### ■プロジェクト場所

カロンガ県マウエンベ村、ムクングウェ・フル・プライマリー・スクール

### ■プロジェクト概要

上記小学校に水がないことによる諸処の問題の解決を図るために、同校内に手押しポンプ型井戸を建設する。合わせて、健康・衛生の根本的な問題解決に資するため、生徒や村人を対象に公衆衛生に関する啓蒙の講習会を行う。

## 経過報告

### I. ドリリング、講習会

(1) 地理調査 (10 月 17 日)  
 MINISTRY OF WATER DEVELOPMENT RURAL WATER SUPPLY AND SANITATION PROGRAM により、学校周辺の地理調査実施。

(2) 器材輸送、器材の装着と取り外し、ドリルによる掘削 (10 月 18 日)  
 深さ 24m 地点で、土砂により、パイプが閉塞し、全てのパイプを撤去した。掘削再開には大量の水が必要となり、翌日、再掘削となる。

(3) ドリルによる再掘削 (10 月 19 日)

貯水タンクを利用し、大量の水をパイプに注入しながら、掘削再開。深さ 36 m地点まで掘削終了。

#### (4) ドリルによる掘削終了 (10月20日)

パイプからの噴水を確認し、深さ 50 mで掘削完了。

#### (5) 公衆衛生講習会 (10月25日)

対象：生徒 27名、PTA 11名、教師 2名  
目的：自分の居住エリアにおける公衆衛生に関する自意識の向上と、疾病の予防法について理解が得られる。

内容：・地元 Youth Club による寸劇 (コレラ)  
・担当保健調査員による講義

#### (6) HIV/AIDS 講習会 (10月26日)

対象：生徒 30人、Youth Club member、教師 2人  
目的：一般的な HIV/AIDS に関する情報をもとに、個人レベルでの HIV/AIDS 予防法を考慮することができる。

内容：・地元 Youth Club による寸劇、歌  
・教師による講義

## II. ポンプの設置・講習

### (1) 手押し型ポンプの設置 (11月25日)

10月20日にドリルによる掘削が終了したが、首都からのポンプの搬入が遅れた為、ポンプの設置は、当初の計画よりも1ヶ月程度遅れた。結局、11月23日に資材が搬入され、11月25日に設置された。

### (2) 手押し型ポンプのメンテナンストレーニング

実施日：2005年12月15日～12月18日 (4日間)  
対象：教師、PTA 計10名  
講師：カロンガ県病院 公衆衛生部門 Water Supply 担当者、水道開発局担当者

内容：

#### <第1日目>

- ・開会式
- ・CBM(Community Based Management)とVLOM(Village Level Operation Maintenance)について
- ・地域への水の供給方法
- ・手押し型ポンプの仕組み

#### <第2日目>

- ・手押し型ポンプのパーツの種類と働き
- ・手押し型ポンプのトラブルの発生起序

#### <第3日目>

- ・手押し型ポンプのパーツの分解 (実技)
- ・パーツのメンテナンス方法 (実技)

#### <第4日目>

- ・パーツの分解とメンテナンスの実演、練習
- ・閉会式

## III. モニタリング

今回、手押しポンプ型井戸建設と公衆衛生講習会、HIV/AIDS 講習会により、生徒、地域住民の公衆衛生に対して関心が高まり、疾患の予防啓発の良い機会となったのではないかと考える。ムウェンベ村の中心的存在ともなっている小学校の公衆衛生の改善、生徒への安全な飲み水の供給、生徒の公衆衛生に関する意識の向上が、生徒の健康、教育の改善、向上につながるのではないかと考える。

本来はモニタリングで、学校の生徒の手洗い状況などを調査したかったが、プロジェクトの進行が遅れたことで、学校が長期休暇に入り、実態を調査することができなかった。

また、雨季に入ったことで、道路状態が悪化し、自転車、車での移動も困難になってしまった。当初、井戸が建設されたら、PTA がトイレの手洗い用タンク、飲み水用のかめ、コップを用意することになっていたが、購入に行くのが困難となったので、プロジェクトの残金を利用し、学校開始後、すぐに生徒に安全な飲み水が提供できるように、トイレ手洗い用タンク 2 個、教室前飲み水用タンク 4 個、飲水用コップ 4 個、教室前手洗い用バケツ 2 個、手洗用おけ 2 個を購入し、贈呈した。

これらは、プロジェクト終了後、配属先である保健衛生部門や、地域住民、PTA を巻きこみ、足運び、経過を見ていきたいと考える。



▲完成した手押し型ポンプで タンクやバケツに水を汲む子供たち

また、今回のプロジェクトを通して、新たな問題点も明らかになり、ポンプの設置や、知識を与えるだけでは、根本的な改善にはならず、ポンプのメンテナンスを始め、継続的な取り組みが必要であると感じた。

長い経過を予測すると、生徒に安全な飲み水が提供できることで、下痢やコレラなどの罹患が減り、就学率が上がることで、今回の井戸建設で、地域住民、PTA、教師、生徒を含め、公衆衛生への意識が高まり、地域における健康の維持、増進につながることを期待し、経過を見ていきたいと考える。

## 支援金額と経費のバランス

支援金：319,756.85 MK  
支出：320,481.00 MK  
-724.15 MK

不足分 724.15MK は山田隊員が補った。

## 最後に

### 平成 15 年度 3 次隊 看護師 治丸 愛

今回、山田隊員と一緒にこのプロジェクトに参加させて頂き、公衆衛生、医療保健分野に関わる自分としては、大変多くの学びと、貴重な体験をさせて頂いた。

貧困、感染症、HIV/AIDS、質の低い保健サービス等の理由から、世界でも最悪レベルの保健指標を有するマラウイ。私は、看護師隊員として、公衆衛生の改善、母子保健の向上の目的で派遣されているが、実際は、病院での毎日の業務 (妊婦検診、家族計画) に追われ、公衆衛生問題に関わらずにいた。

村に住む女性に話すと、一番の問題は水だと答えることが多い。命の源である水。それを確保するのに、何キロも歩き、重い水を抱えて家まで運ぶ。この仕事は大抵、女性が子供である。

マラウイ全体では 47% の世帯しか安全な飲み水を確保できない。水の確保もままならない中、しかも安全な飲み水の確保はとても難しい現状である。

このプロジェクトに関わるまで、私はこの水問題に関して、ただ単にアクセスの問題であり、単純に井戸や水道を引けばいいと考えていた。しかし、マラウイの水の供給における政府の指針下では、井戸を掘ることが一概に村人にとっていいことばかりではないことを強く感じた。

それは、井戸建設に関わる費用のほとんどがドナーに頼っていて、その後の管理はそれを利用する地域住民に委ねられるにも関わらず、住民がそれを管理する能力を持たないまま

に建設された場合である。結局、維持できずに壊れて動かなくなったり、水源の汚染や公衆衛生の不良から、下痢症やコレラ、マラリアなどの疾病をもたらすことになるのである。また、管理委員会の監視のもと、井戸の維持、運営費の徴収が必要であり、これが村人の経済状態をいっそう苦しめることになる。

今回のムクングエ小学校の井戸建設は、PTA を中心に管理委員会が発足され、メンテナンスのトレーニングもしたことから、これらの井戸建設における弊害を防ぐことができるのではないかと考える。

また、弊害がおきないように、公衆衛生部門と水道開発局とが連携し、サポート体制を整えておくことも大切であると感じた。

ムクングエ小学校の一杯のバケツの水から始まったこのプロジェクト。子供たちに安全な飲み水を提供することが目的であるが、ただ提供するのではなく、いかに安全な水を確保し維持していくかを知ることが大事であり、それが、個人レベルでの健康の維持、増進につながることを、私自身が痛切に感じ、また、地域住民や生徒たちも学ぶ機会となったと期待したい。そして、水問題の解決、改善が女性や子供の労働力の軽減になり、母子保健の向上、子供の就学率の向上につながるのではないかと考える。

最後に、今回のプロジェクトを進めるにあたり、多くのトラブルや困難もあった。トランスポートが時間通りに確保できず、到着が遅くなり、村人が帰っていたり、迎えのトランスポートがこず、夕方まで待たされたり、雨が降れば道路がぬかり、車でも移動が困難となったり、講習会の予算がなかなかおらず、日程が組めなかったり…。頭では、日本との違いをわかってはいたつもりであったが、これまでこんなに自分の身で感じたことは少なかった。これもまた、マラウイの現状を知る良い機会となった。

そんな中、一緒に夕方まで車を待ってくれた子供たち、昼食を準備してくれた村の女性、日程の変更の確認を片道 15 キロ歩いて確認にきてくれた小学校の先生、講習会をサポートしてくれた担当保健調査員、公衆衛生部門のニレンダ氏、水道開発局のカファラ氏、配属先の上司でトランスポートの確保とメンテナンストレーニングの予算を下させた病院長、このプロジェクトを遂行するにあたり、関わって下さった現地の方々の暖い支援に触れることができ、感謝の気持ちで一杯である。

山田隊員とマウェンベ村の人々、ムクングエ小学校の生徒の交流から生まれたこのプロジェクト。このプロジェクトに関わった全ての人たちの健康への思いが、ムクングエのきれいな水によって、多くの人々のもとにたどり着くことを願い、改めてご支援していただいた日本マラウイ協会に感謝致します。



▲井戸管理委員会メンバーと

## レポート

**前駐日マラウイ大使のジェームス・ジョン・チカゴ氏は昨年 12 月 28 日、任期を終えられ離日されました。日本マラウイ協会では、それに先立つ 12 月 14 日、前大使夫妻をお送りする会を JICA 広尾にて開催しました。同会での前大使のご挨拶を下記に掲載します。**

チカゴ前駐日マラウイ大使の送別会のご挨拶  
2005年12月14日 於：JICA広尾

数原会長を始めとする日本マラウイ協会のメンバーは、私が日本に就任した際には歓迎してくださり、それ以来支援してくださった。協力隊経験者の皆さんはマラウイの現場を助けてだけでなく、マラウイに住んでよく知っているため、日本国内でもマラウイを支援してくださっている。

当初私は日本に来ることは想像もしていなかった。しかし英国に留学していた時には、教授はよく日本や日本の経営について話していた。そのため、私が日本に就任することになった時には、それは日本から学ぶよい機会だと思った。

日本では多くの地方を訪問して日本の成功を学んだ。成功の要因としては、(1) 自立の精神、(2) 勤勉の精神、(3) 日本への愛(例えば日本文化、和食などが好きなこと)の3点があげられると思う。これらが現在の日本を形成したのであろうと考える。また、全国各地で進められている一村一品運動(とそれに類する活動)もあげられよう。例えば大分、神戸、岐阜などの活動である。

私はマラウイに帰ったら、これらのことをマラウイに合うように翻訳し、農村部にも紹介したい。例えば、多くのマラウイ人は床に寝るのはマラウイ人だけだと思っている。日本人も床に寝ることを知ると、彼らは床に寝ることを高く評価するようになるだろう。以前地方を訪問した時、受入れてくれた人は客人に失礼にならないようベッドを用意してくれたが、それは壊れたものであった。考えてみると、床に寝たほうがよかったのではないか。

私にとって日本で働くことは楽しみであった。シマを食べる会も楽しかった。こうした会を自分たちで開催することはできなかったが、日本マラウイ協会が独立記念日を思い出させてくれた。

これらのことを新大使に伝えたい。ただし、日本からどれだけのことを学ぶことができるかは自分たちにかかっている。私は現大統領に日本訪問を要請している。



▲チカゴ前大使夫妻と参加者

日本マラウイ協会はいつも我々の支援者である。私が就任して皇居を訪問した際に、天皇陛下は日本マラウイ協会に言及された。また今日、外務省を訪問した際には外務省側が数原会長に言及した。

マラウイには飢餓などの諸問題があり、これらへの日本側の取り組みに期待している。例えば、マラウイで農民自立支援プロジェクトを進めている青年海外協力協会の丹羽さん(マラウイ OB)にも会いたいと思っている。マラウイに来るすべての日本人に私の家に来てほしい。私の家は「フジ」と名づけた。先日、韓国に退任の挨拶に行った際

には、「フジ」という家の名前のために、先方から「大使は日本化した」と言われた。

日本マラウイ協会は私の誇りである。引き続き素晴らしい仕事をしていただきたい。数原会長にはまたマラウイに来てほしい。大学で講義してもらいたい。ありがとうございました。

### グローバルフェスタ2005と協力隊発足40周年記念JICAボランティアフェスタ

2005年10月1・2日(土・日)の両日、東京・日比谷公園で「グローバルフェスタ2005」が開かれました。これは前年まで「国際協力フェスティバル」と言われていた催しで、今回から名称が変更されました。今回で15回目となりますが、日本マラウイ協会は、94年の初参加から12回連続の参加となりました。

当日は割り当てられたテントに、マラウイ国内の写真パネルや、当会や当会の活動を紹介するパネルを展示しました。また、当協会編集の国情紹介誌「マラウイ The Warm Heart of Africa 第2版」や旅行ガイドブック「暖かきアフリカの心 - 湖とサバンナの大地へ」、「チェウ語辞典改訂版」をはじめ、JOCV マラウイ派遣 OB/OG が持ち帰った民芸品などの販売を行い、来場の方々へマラウイの紹介案内に努めました。



▲グローバルフェスタ 2005 出展の様子

一方、10月29・30日(土・日)にはJOCV発足40周年を記念してJICAボランティアフェスタが東京・代々木公園で開催されました。29日には隣接のNHKホールで天皇・皇后両陛下、小泉総理大臣らをお迎えしての記念式典も行われました。

日本マラウイ協会は代々木公園でのフェスタに出展し、前記のグローバルフェスタ同様の展示や販売に加えて、マラウイ風揚げパン「マンダジ」をその場で揚げ、マラウイ紅茶「チョンベ・ティー」と合わせて販売しました。このマンダジとチョンベ・ティーは2日間で200セット以上の売上げがありました。

当会テントには、マラウイ協力隊派遣初期から最近帰国した方まで多くの隊員 OB/OG が訪れました。また、派遣前でこれから訓練所へ入る方が、テント内での作業を手伝ってくれ、世代を越えた交流が広がり、40周年記念にふさわしいイベントになりました。



▲JICA ボランティアフェスタ会場内の様子

### レポート 平成 17 年度 2 次隊出発

JOCV 平成 17 年度 2 次隊マラウイ派遣隊員一行 17 名が 11 月 28 日、成田空港から出発しまし

た。当会から上田理事が東京・箱崎の TACT で見送り、新隊員らを激励しました。既に現地訓練を終え、各配属先での活動が始まっています。今後の活躍が期待されます。

▶平成17年度2次隊の皆さん  
於：TACTのVIPルームにて



### 投稿 JOCV 発足 40 周年記念式典に参加して

JOCV OB 平成 3 年度 3 次隊  
栄養士 中川 総

昨年 10 月 29 日、東京・渋谷の NHK ホールで行われた JOCV 発足 40 周年記念式典に小学生の息子、娘を連れて参加しました。当日は会場の外で中々日頃会う機会のない先輩・後輩・同期隊員に大勢会う事が出来、とても懐かしく、そして嬉しく思いました。

式典が始まる前、大きなスクリーンに各国 JICA 事務所で働く現地スタッフからのビデオレターが色々流されていましたが、その中で私が隊員時代お世話になったカバロ先生が映った際には(残念ながら移動中の為、話の内容はちゃんと聞けませんでした)思わず子供達に「あの人、父さんの先生だぞ!」と自慢していました。

NHK ホール内での式典では天皇皇后両陛下、そして小泉総理ら政府関係者も列席され、40 年の JOCV の足跡が上映され、OB/OG にとってはとても心地の良い、胸の熱くなる式典であったのではと感じました。

子供達に感想を聞いた所「こいずみそうりが出てきた時には本当にビックリした! 本物を見る事が出来てうれしかった!」との事……。協力隊の活動内容の素晴らしさを子供心に感じてもらったのですが、どうも、小泉総理のインパクトが強かったみたいでした。

蛇足ですが、後日、青年海外協力協会(JOCA)主催の反省会にて「式典出席の葉書を出したのに当日来なかった OB/OG が千名近くいた」とのこと……。さすがにこれは一 OB として情けなくなりました。

### 投稿 JICA ボランティアフェスタに参加して

JOCV 平成 17 年度 3 次隊 候補生  
コンピューター技術 奥苑文雄

昨年 10 月 29・30 日の両日、東京・代々木公園で行われた JICA ボランティアフェスタで、日本マラウイ協会の出展ブースをお手伝いさせていただきました。

私はマラウイという国を、協力隊の要請書を見るまで知りませんでした。選考に合格し、マラウイについて調べていく中で、インターネットで OV の方を知り、その方の紹介をきっかけに、今回のイベントに参加させていただきました。

「マンダジ」、「チョンベ・ティー」、どちらも私にとって未知なるもの、しかも、まだ訓練にも入っていないのに、OV の方に混ざって参加とあって、なんだか不思議な感覚で手伝わせていただきました。

試しにひとつマンダジを揚げてみると、生来の不器用もあってか、売り物にするには申し訳ないような形に……。でも、外はサクッと、中はしっと

り柔らかく仕上がった出来立てのマンダジを味わうと、勝手にマラウイに近づいたような気が(笑)。現地食べる感覚とは違うと思いつつも、今までマラウイと全く接点がなかったので、とても貴重な体験でした。

▶筆者(左端)とマラウイ派遣



今回参加させていただいて得たものは、マラウイという国についてだけではありませんでした。様々な国、職種のOVの方々、同期候補生達、これから協力隊に挑戦しようという方にもお会いすることができました。これから活動していく上で、これは大きなアドバンテージになると思えました。

まだまだ先のこととなりますが、マラウイを知らない方に、マラウイを紹介できればと考えております。そのために、マラウイでは一歩踏み込んだ生活をしてきたいと思えます。

投稿

平成 17 年度 3 次隊訓練所  
レポート

JOCV 平成 17 年度 3 次隊 候補生  
コンピューター技術 奥苑文雄

平成 18 年 1 月 6 日から 3 月 17 日までの 71 日間の予定で、私は福島県二本松市にある二本

松青年海外協力隊訓練所にて、マラウイへの派遣前訓練を受けております。二本松訓練所には現在 165 名の訓練生がおり、そのうち私を含めて 11 名がマラウイに行く予定です。

訓練もはや 3 分の 2 以上が過ぎ、表敬訪問についてのオリエンテーションなど、いよいよ訓練終了後の話も出てくるようになりました。

ここまでを振り返ってみて思うことは、まず、何とんでも仲間のおかげと、大切さです。私は今年の誕生日は訓練所で迎えたのですが、候補生全員から「Happy Birthday」を唄ってもらいました。他にも体調が悪いときには心配してもらったり、何かあればみんなが助けてくれます。私はここへ来る前は、何かあれば仲間を助けようと思って来たのですが、実際のところ、逆に助けられてばかりです。他の隊次の方も感じるのだと思いますが、私は 17 年度 3 次隊で本当によかったと思っています。

次に、訓練の内容について少し書かせて頂きます。訓練のメインとなる語学ですが、私は英語があまり得意なほうではないので苦労しています。でも、いやではありません。喋れるようになることは嬉しいですし、何よりマラウイでは英語で会話するからです。他にも印象に残る講座やイベントがいくつかあります。OV デーでは、直近までマラウイで活動されていた隊員 OV の方から、現在のマラウイについての貴重なお話を頂きました。私を含めてほとんどのマラウイ派遣予定の候補生は、水や食料、電気や交通といったマラウイでの生活について不安のようなものを抱えております。なので、無事に帰ってきて、生活についてのお話をして頂き、とても力づけられる思いがしました。また、OV デーでは他にも異文化についてのいろいろなお話や事例研究、ゲームなどを行い、隊員活動の厳しさを知ることが出来たと思います。

所外活動では、私は老人ホームに御邪魔してまいりました。お手伝いというよりも本当に御邪魔しているだけでしたが、入所されている方と接して、日本に残していく家族のことを思い、こうして送り出してくれたことにあらためて感謝をするとともに、無事に帰国して、今まで以上に大切にしなければならぬと強く思いました。

訓練も残すところ 3 週間を切り、レポートや語学テスト、プレゼンテーション、行事なども立て続けにありますが、体調管理に気をつけて、3 月 27 日に無事に出発できるように頑張ります。

レポートというよりも感想文のようになってしまいましたが、最後にもう一度。私は 17 年度 3 次隊で本当によかったと思っています。

## 《日本マラウイ協会》

平成 17 年 9 月～平成 18 年 2 月活動内容

- (1) 【9月21日】 機関誌KWACHA第34号発行
- (2) 【10月1日～1月31日】 食糧支援募金 2005実施 (1面の記事参照)
- (3) 【10月1・2日】 グローバルフェスタ2005 出展 (3面の記事参照)
- (4) 【10月29・30日】 JICAボランティアフェスタ出展 (3・4面の記事参照)
- (5) 【12月14日】 チカゴ前駐日マラウイ大使送別会開催 (3面の記事参照)
- (6) 【12月29日】 第4回マラウイウォームハートプロジェクト完了 (2面の記事参照)

## 日本マラウイ協会情報

### ■第 24 回通常総会のご案内

日本マラウイ協会は第 24 回通常総会を別紙の通り開催します。会員の皆様は同封の葉書にて出欠をご連絡下さい。

### ■ KWACHA バックナンバー

当会は今年 2 月 26 日に創立 23 周年を迎えましたが、創立時の機関紙 KWACHA 第 1 号から第 35 号 (今号) までの全バックナンバーを PDF ファイル化し、当会ホームページへ掲載しています。是非ご覧下さい。

URL : <http://www.jocv.or.jp/malaw/malawi-j.htm>

から「日本語」を選択、左端のメニューから「機関紙 KWACHA」をクリックすると、右ページに号数一覧が出てきますので、希望の号数をクリックしてください。

### ■ 日本マラウイ協会の刊行物

- (1) チェワ語辞典 統合改訂版 (2000 年 7 月発行)  
B5 版 186 ページ 1 部 1,500 円 (送料 290 円)
- (2) マラウイ旅行ガイド 新訂第 2 版 (97 年 7 月発行)「アフリカの暖かき心、湖とサバンナの大地へ」 B5 版 108 ページ 1 部 1,200 円 (送料 210 円)
- (3) 国情紹介誌「Malawi - The Warm Heart of Africa」第 2 版 (94 年 7 月発行) A4 版 40 ページ 1 部 1,000 円 (送料 210 円)

送料は「冊子小包郵便物」扱いで表示しています。複数種を 1 冊づつご注文の場合は次のとおりです。

- (1)+(2) = 340 円    ■ (2)+(3) = 290 円
- (1)+(3) = 340 円    ■ (1)+(2)+(3) = 340 円

各書ご希望の方は、本ページ最後の入会方法の欄に記載の郵便振替口座または銀行口座宛に、代金および送料をお送りください。その際、郵便振替の場合は振替用紙の通信欄に必ず「xxxx xx 冊希望」と明記してください。銀行振込の場合は事前に必ず E-mail、あるいは電話/FAX で「xxxx xx 冊希望」と当会宛連絡してください。

### ■ ご意見、ご質問をどうぞ

日本マラウイ協会に対するご意見、ご要望、ご質問などありましたら、下記当協会宛へご遠慮なくお寄せください。また、電子メールによるマラウイ関連情報の配信も行っておりますので、電子メールアドレスをお持ちで、ご希望の方は、あわせてご連絡ください。

### ■ 日本マラウイ協会 月次定例会

日本マラウイ協会では、原則、毎月第 3 水曜日 18:30 頃に、東京都内 (通常は JICA 広尾の会議室) で月次定例会を開催し、マラウイ関連の支援活動などについての討議や、マラウイ関係者間の情報交換などを行っております。参加は会員でなくても構いません。初めての方も大歓迎です。詳しくは当協会までお問い合わせください。

### ■ 日本マラウイ協会 入会方法

ご連絡いただければ入会申込書をお送りしますので、各項記入の上ご返送ください。E-Mail で入会希望の旨を連絡くださっても構いません。また、入会金と年会費の合計 (個人正会員の場合 1,000 円 + 3,000 円 = 4,000 円) を下記の銀行口座または郵便振替口座へお送りください。(郵便振替口座が安く便利です)

〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-2-24

青年海外協力協会気付

日本マラウイ協会

TEL: 03-3447-2921

FAX: 03-5798-4269

E-mail: [japan-malawi@mc.newweb.ne.jp](mailto:japan-malawi@mc.newweb.ne.jp)

三菱東京 UFJ 銀行 東恵比寿支店 普通口座 255739

口座名義人 日本マラウイ協会事務局 貝塚光宗

郵便振替 00190-7-13125、加入者名 日本マラウイ協会

また、協会規約その他についても上記宛お問い合わせください。